

「する」言語と「なる」言語を考え直す

西光義弘

課題

- ◆ 「する」言語である英語にはなぜ自動詞があるのか。また自動詞はどのような役割があるのか。
- ◆ 「なる」言語である日本語にはなぜ他動詞があるのか。また他動詞はどのような役割があるのか。

きっかけ

- ◆ 日本語と英語における主語の選定についての相反する傾向が異なる研究者によって指摘されている。
- ◆ 従来の研究では表面的に目立つ主語選定の日英語の差に惑わされて、その根底にある真の一般化を見失っていたと考えられる。
- ◆ この問題を解決する方向を求める過程において、自動詞・他動詞の問題が重要になってくる。

主語選定における相反する傾向

1. 無生物主語を取る英語 対 人間主語を取る日本語

- ◆ (1) **The heat** makes me feel languid. (Chamberlain)
- ◆ #熱気が私をだるく感じさせる。→暑いので私は身体がだるい。
- ◆ (2) **Despair** drove him to commit suicide.
- ◆ 絶望が彼を自殺へ追いやった。→ 希望を失って彼は命を絶った。
- ◆ (3) **What** brought you here?
- ◆ *何があなたをここに連れてきたのか。→ あなたは何故ここにきたのですか。(小島)
- ◆ (4) **This bus** will take you to the station.
- ◆ このバスはあなたを駅に連れて行きます。→ このバスに乗れば駅に行きます。

- ◆ (5) **This medicine** will cure your cold quickly.
- ◆ #この薬は風邪を直ちに治します。→ この薬を飲めば風邪はすぐに治ります。
- ◆ (6) **His words** surprised me.
- ◆ 彼の言葉は私を驚かせた。→ 彼の言葉に驚いた。
- ◆ (7) **Rain** prevented us from going on a picnic.
- ◆ *雨がピクニックに行かせなかった。→ 雨でピクニックに行けなかった。
- ◆ (8) I'm sorry. **The curve** threw me.
- ◆ ごめんなさい。 *カーブが私を投げたものですから。
- ◆ → ごめんなさい。カーブで体がゆれたものですから。